



# 沖縄戦終結へ

## ▶ 収容所

米軍は、<sup>せんりょう</sup>占領地域内の部落に収容所を設け、日本の軍人と非戦闘員<sup>ひせんとういん</sup>を分けて収容しました。沖縄島では基地建設のために中南部の無人化政策がとられ、北部の収容所への強制移住<sup>じっし</sup>が実施されました。そのため、北部の収容所は当時の人口の約6割が集中する過密状態となりました。占領地域の住民政策のために、多くの軍政要員が送りこまれました。



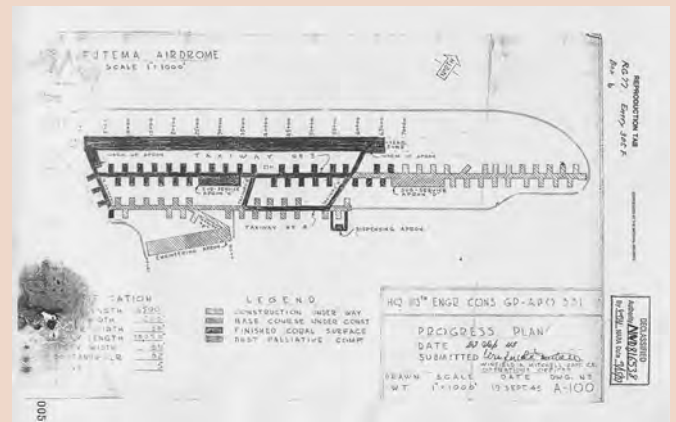
〔国防総省 / 海兵隊文書〕  
「米国立公文書館蔵 米海軍写真資料 23」  
石川収容所 1945年8月15日  
資料コード 0000112176  
写真番号 112-02-3



〔国防総省 / 海兵隊文書〕  
「米国立公文書館蔵 米海兵隊写真資料 52」  
小禄の捕虜収容所 1945年6月  
資料コード 0000112295  
写真番号 98-31-1

## ▶ 基地の建設

工兵隊は日本本土への攻撃体制を強化するため飛行場等の建設を進め、収容所の住民も基地建設の労働力となりました。ニミッツ元帥<sup>げんすい</sup>は上陸後の調査で沖縄島や伊江島が長距離爆撃機用の基地に適していることがわかると、統合参謀本部<sup>さんぼう</sup>に対し大規模な飛行場を沖縄に建設することを提案しました。普天間飛行場は米軍によって建設された飛行場のひとつでした。

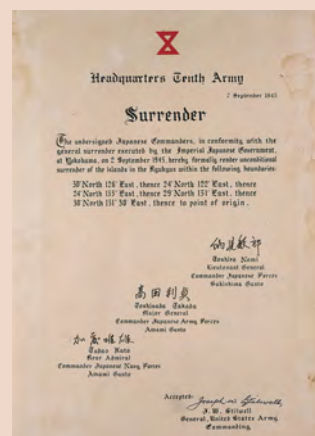


〔工兵局長〕「Area Allocations Airfield Okinawa」  
普天間飛行場滑走路 1945年9月23日 資料コード U000021118

## ▶ 降伏調印式

掃討戦<sup>そうとう</sup>を続けた米軍は、7月2日にアイスバーグ作戦の終了<sup>しゅうりよう</sup>を宣言しました。広島・長崎の原爆投下、日本のポツダム宣言受諾<sup>じゅたく</sup>により、第二次世界大戦が終結しました。日本政府の降伏文書調印は9月2日、沖縄では南西諸島の全日本軍を代表して先島師団長納見としろう<sup>のうみ</sup>敏郎中將らが9月7日に降伏文書に署名し、沖縄戦が公式に終了しました。

両軍と民間人もふくめた戦没者数は、およそ20万人、太平洋戦争史上最も多くの被害者を出した戦いと言われています。



〔米国収集資料 / その他文書〕  
「Surrender」  
降伏調印文書 1945年9月7日  
資料コード 0000017549



〔国防総省 / 海兵隊文書〕  
「米国立公文書館蔵米海兵隊写真資料 03」  
降伏調印式 1945年9月7日  
資料コード 0000112246  
写真番号 113-30-3